

平成25年度
小児等在宅医療連携拠点事業
成果報告会 資料

千葉県・
医療法人社団麒麟会



1 小児等在宅医療における連携上の課題(事業タスクに応じた課題)

小児等在宅医療連携拠点事業で示す、
あるべき姿の県内全域での実現

(1) 在宅生活の円滑なスタートに向けた 支援・取組み(入り口の整理)

- 《現状》 ◆当事者や関係者の在宅生活への不安の増大、知識・情報の不足
◆退院時に関わる専門職種と在宅で必要な支援とのマッチングが不十分

(2) 主要な専門職種の実践力向上への 支援・取組み(人材の育成)

- 《現状》 ◆医療的ケアを要する子どもが在宅で医療や福祉のサービスを受けられる環境や体制が不十分、資源が不足

(3) 地域ごとの多職種協働支援(チーム ケア)の実践に向けた支援・取組み

- 《現状》 ◆各地域の課題について専門職種間での共通認識が希薄
◆各地域の実情に応じた多職種協働支援の必要性やあり方について専門職種間で認識が相違(戸惑い)

(4) 医療機関と地域を結ぶための取組み

- 《現状》 ◆中核病院の医師や地域の在宅診療医どうしのつながりが希薄
◆療養上の必要に応じ安心して受入れを依頼できる医療機関が不足

2 連携上の課題に対応するための千葉県の活動計画

《連携上の課題》



《平成25年度の取組み》

(1) 在宅生活の円滑なスタートに向けた支援・取組み(入り口の整理)

- ① 当事者・家族等への相談支援の提供
- ② 「つながろうマップ」(Web上の資源情報)の作成
- ③ サービス活用Q&Aパンフレットの作成・配付
- ④ 行政・保健師への研修会の開催

(2) 主要な専門職種の実践力向上への支援・取組み(人材の育成)

- ① 訪問看護師の育成研修
- ② 相談支援専門員のサービス等利用計画のガイドライン作成
- ③ 相談支援専門員の役割認識を高める研修

(3) 地域ごとの多職種協働支援(チームケア)の実践に向けた支援・取組み

- ① シンポジウム、ワールドカフェ等の開催
- ② 多職種による協働支援事例検討会の開催
- ③ 特別支援学校の校長会等との連携・意見交換
- ④ 行政・保健師への研修会の開催(再掲)

(4) 医療機関と地域を結ぶための取組み

- ① 在宅医療に実績や関心を持つ医師による実践報告会の開催
- ② 医療機関における一時受入れの支援

医療・福祉・行政等のバランスのとれた取組み!

3 平成25年度に実際に行った取組みと得られた効果

(1) 在宅生活の円滑なスタートに向けた支援・取組み(入り口の整理)

① 当事者・家族等への相談支援の提供

障害児の家族や関係機関等からの依頼により、電話や直接の訪問による相談支援を実施 (4件/半年)

② 「つながろうマップ」(Web上の資源情報)の作成

医療、福祉、教育等の関係機関の機関名、所在地、連絡先等の基本情報をウェブ上の地図に掲載
(協力機関数 約1,500 現在進行中)



チーバくん

③ サービス活用Q&Aパンフレットの作成・配付

医療依存度の高い子どもや家族の在宅生活を支援するための、わかりやすいQ&Aパンフレットを作成・配付
(配付部数 5,000部)

④ 行政・保健師の研修会の開催

先進的な取組みを行っている自治体(都市部1か所、郡部1か所)からの発表と、参加者による意見交換を実施
(参加者:市町村、保健センター等の職員 約50名)

3 平成25年度に実際に行った取組みと得られた効果

(2) 主要な専門職種の実践力向上への支援・取組み(人材の育成)

① 訪問看護師の育成研修

ア 新規に小児等訪問看護を訪問看護ステーションへの研修、支援 (4件／半年)

- ・ 出前研修 1コース 5日
※ 要望を受けて、県内各地へ
出向いて研修を実施
- ・ 同行訪問研修 1コース 15日

イ 経験のある訪問看護ステーションへのコンサルテーション (3件／半年)



チーバくん

② 相談支援専門員のサービス等 利用計画のガイドライン作成

相談支援専門員を対象に実施したアンケート結果(回答数 約140名)を踏まえ、サービス等利用計画作成にあたって参考となるガイドラインを作成 (現在、進行中)

③ 相談支援専門員の役割認識を 高めるための研修 (40名)

医療的ケアを要する子どもと家族への相談支援に関する留意点や相談支援専門員の果たすべき役割等についての講演

3 平成25年度に実際に行った取組みと得られた効果

(3) 地域ごとの多職種協働支援(チームケア)の実践に向けた支援・取組み

《テーマ》 ～ 医療的ケアのある子ども達への支援の現状と課題、これから ～

① シンポジウム

(中南部(木更津市) 110名)

■ 基調講演 前田浩利氏(医師)

■ シンポジウム

- ・ 地域の中核病院(千葉リハビリテーションセンター、亀田総合病院、君津中央病院)の医師
- ・ 訪問看護ステーションの管理者
- ・ 相談支援専門員
- ・ 居宅介護事業所の管理者



① ワールドカフェ等

(東部(旭市) (40名))

■ パネルディスカッション

- ・ 地域の中核病院(旭中央病院)の医師
- ・ 障害児支援の事業所の管理者
- ・ 訪問看護ステーションの管理者

■ ワールドカフェ

参加者どうし、アットホームな雰囲気の中、未来志向で語りあう！



3 平成25年度に実際に行った取組みと得られた効果

(3) 地域ごとの多職種協働支援(チームケア)の実践に向けた支援・取組み

② 多職種による協働支援の事例検討会

医療依存度の高い子どもと家族への多職種協働支援のあり方について、仮想事例を用いて学ぶ検討会を開催

ア 北西部(流山市) 約50名

イ 北部(成田市) 約50名

※ 地域を限定したことで、地域の関係者の顔の見える関係づくりに貢献し、地域固有の課題の共有や解決策の検討ができた!



③ 特別支援学校との連携

- ・ 特別支援学校の教員を対象にした実地講習(約40名)
- ・ 校長会、教頭会へ協力依頼、意見交換(計 約100名)

3 平成25年度に実際に行った取組みと得られた効果

(4) 医療機関と地域を結ぶための取組み

① 医師による実践報告会 (13名)

千葉県医師会の協力の下、小児等在宅医療に実績のある医師や関心のある医師どうしで、小児の在宅医療との関わりや日常的に抱えている課題等について、報告&自由な意見交換

※ 病院医師と診療所医師の顔の見える関係づくり
(ネットワーク)

※ 継続希望の声あり

チーバくん



② 医療機関における一時受入れの支援

東京ベイ・浦安市川医療センターにおける小児等の一時受入れに必要な人材育成やシステム構築を支援

※ 事前に看護師(3名)が、千葉リハビリテーションセンターで研修(延15日間)

↓↓

年度内に3名の小児を受入れ

4 特徴的な取組み、先進的な取組み

特徴: 障害福祉部門において以前から重症心身障害児の支援を行ってきた強みを活かしたこと

具体的には…

① 担い手の要として、医療分野の「訪問看護師」、福祉分野の「相談支援専門員」の両方に焦点を当て、バランスの取れた人材育成や多職種連携に取り組んだ。

- ★ 平成23年度から、県単独で「障害児等支援訪問看護センター事業」(小児等を対象とした訪問看護師の養成支援)を実施した実績あり。
- ★ 全国トップクラスの規模(毎年度500名以上)での相談支援専門員の育成と、資質向上のための研修を実施している実績あり。

② 医療、福祉、教育、保健等の幅広い分野の専門家で構成する研究会や、医師会、看護協会等の関連団体の協力の下で、全県的に事業を展開した。

- ★ 「在宅医療・訪問看護研究会」「千葉県総合支援協議会 療育支援部会」「千葉県総合支援協議会 相談支援部会」を通じて、計12回の意見交換。
- ★ 周知・広報に当たり、県医師会、県看護協会、県訪問看護ステーション連絡協議会等の全面協力あり。

5 今後の課題(うまくいかなかった点も含む)、効果的な活動にするためのポイント

★ 今後、さらに以下の点に留意した事業展開を検討する必要がある。

- ① 在宅医療に関わる医師のネットワーク強化や増加
- ② 教育との連携強化(特別支援学校の現場サイドとの連携)
- ③ 各医療圏のリーダー的存在として活動できる相談支援専門員の育成

国の事業採択と県議会の予算措置が前提…

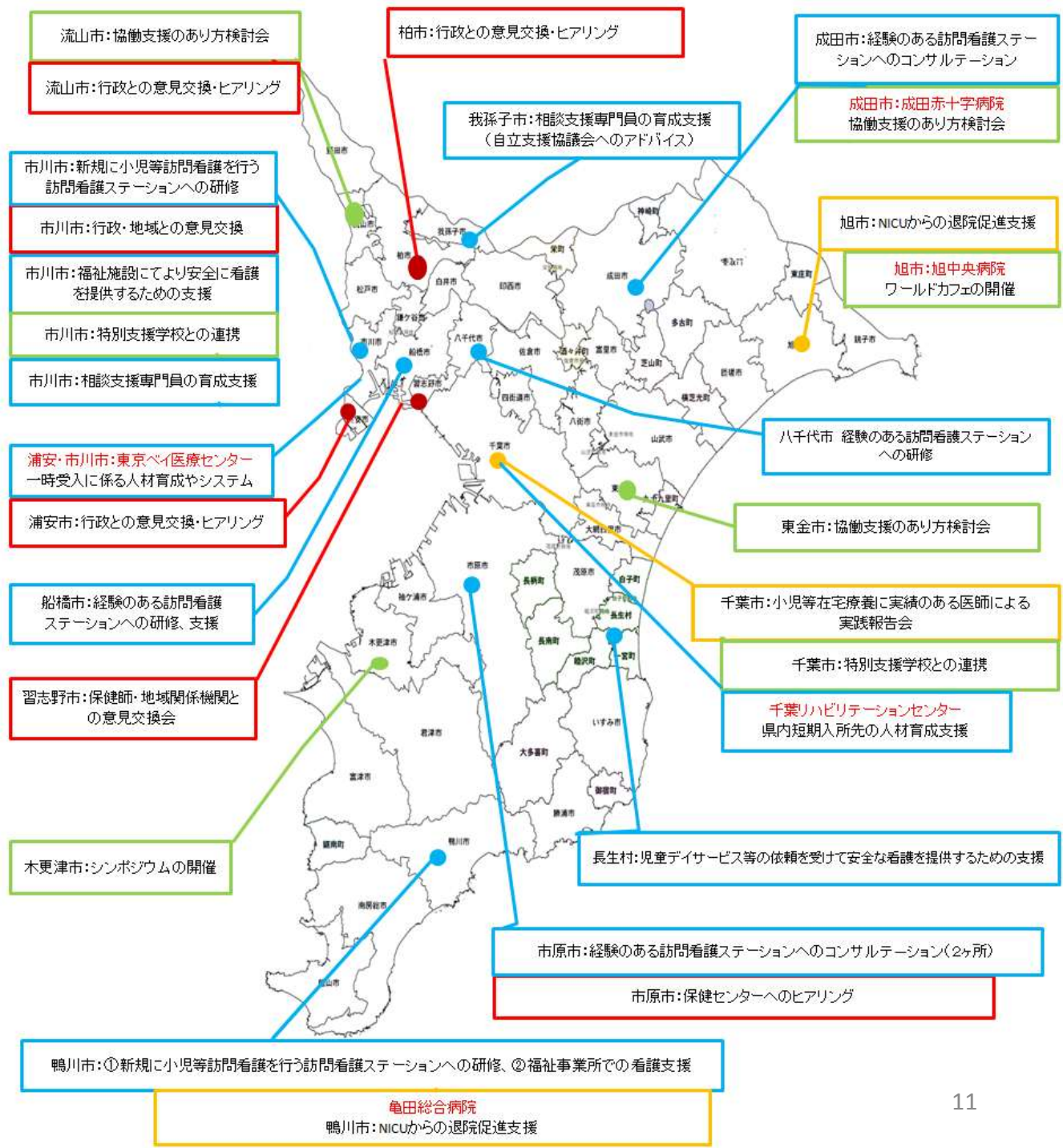
★ 次年度は、上記の点も踏まえながら、**平成25年度に実施した事業の継続、拡充**(例:多職種協働支援の事例検討会の医療圏ごとの開催)、**新規の取組み**(例:医療的ケアを必要とする子どもの計画相談を担う地域リーダー的な相談支援専門員の育成)を行いたい。

効果的な活動にするためのポイント

- 地域ごとの特性や課題を踏まえた事業展開
- 連携の要となるコーディネーター(相談支援専門員、訪問看護師等)の育成強化

6 拠点事業の実施マップ

右図は、拠点事業の実施内容と実施地域を県地図に示したものです。→



チーバくんを横から見ると、千葉県地図になります